

第2回酒田市社会教育委員の会議 次第

日 時：令和7年3月24日（月）午後1時30分～

場 所：酒田市総合文化センター4階412号室

1 開 会

2 教育長あいさつ

3 協 議

(1) 令和7年度予算の概要について 資料1

(2) 酒田市生涯学習推進計画について

・令和6年度 事業実績について 資料2

・令和7年度 事業計画について

・酒田市生涯学習推進計画（後期計画）の策定について 資料3

4 報 告

(1) 第16回山形県社会教育研究大会について 資料4

(2) 令和7年「二十歳を祝う成人の集い」について 資料5

(3) 「第4次酒田市子ども読書活動推進計画」の策定について 資料6

5 その 他

6 閉 会

令和6年度 酒田市社会教育委員名簿

R5.6.1.～R7.5.31.

	氏 名	推薦団体等	備 考
1	小林 伸	酒田市小学校長会	黒森小学校長
2	佐藤 耕	酒田飽海PTA連合会	会長(一中会長)
3	山口 昇子	酒田市法人保育園・認定こども園連絡協議会	若浜保育園長
4	宮内 悟	酒田市芸術文化協会	副会長
5	中里 小枝	酒田市市街地コミュニティ振興会連絡協議会	泉学区主任児童委員
6	鈴木 勝	酒田市コミュニティ振興会連絡協議会	西荒瀬コミュニティ振興会長
7	来生 賢太	酒田青年会議所	
8	阿部 公一	東北公益文科大学	教授
9	片桐 晃子	識見を有する者	元県家庭教育アドバイザー
10	富士 直志	識見を有する者	生涯学習施設「里仁館」館長
11	庄司 憲昭	識見を有する者	住職
12	渡邊 敦	識見を有する者	キッズドームソライ館長

事 務 局

	氏 名	所 属
1	赤坂 宜紀	酒田市教育委員会教育長
2	堀賀 泉	酒田市教育委員会教育次長
3	前田 聡子	酒田市教育委員会社会教育課長
4	丸藤 真也	酒田市教育委員会社会教育課長補佐
5	斎藤 由加	酒田市教育委員会社会教育課社会教育主査兼社会教育係長
6	木崎実可子	酒田市教育委員会社会教育課社会教育係主任
7	庄司 奈央	酒田市教育委員会社会教育課社会教育係主任
8	長南 健太	酒田市教育委員会社会教育課社会教育係主事
9	工藤 暢晃	酒田市教育委員会社会教育課社会教育係主事

令和7年度 事業予算概要

資料1

1 生涯学習振興総務管理事業	6,689,000 円
社会教育委員報酬・公民館運営審議会委員報酬	218,000 円
借上料	216,000 円
・社会教育研究大会参加用バス借上料	216,000 円
山形県社会教育連絡協議会等への負担金	41,000 円
生涯学習振興支援補助金	428,000 円
・子ども会育成連合会	84,000 円
・酒田海洋少年団	134,000 円
・青少年を伸ばそう市民会議	126,000 円
・白鳥を愛する会	84,000 円
生涯学習施設「里仁館」への補助金	5,193,000 円
その他 旅費、一般需用費、通信運搬費（郵券料等）など	593,000 円
2 生涯学習施設管理運営事業	148,857,000 円
修繕料	6,017,000 円
燃料費および光熱水費	20,697,000 円
施設管理委託料	117,321,000 円
・文化センター施設維持管理業務委託料	43,780,000 円
・公益研修センター（指定管理委託料）	33,420,000 円
・ひらた生涯学習センター施設管理委託料	6,086,000 円
・出羽遊心館庭園維持管理業務委託料	6,960,000 円 ほか
備品購入費	153,000 円
・文化センター備品（調理実習用炊飯器）	43,000 円
・出羽遊心館備品（冷蔵庫）	104,000 円
・公印備品（中央公民館窓口出納印）	6,000 円
その他 一般需用費、通信運搬費（電話料等）など	4,669,000 円
【繰越明許費】	
・工事請負費（総合文化センター屋上改修工事費）	13,985,000 円
3 二十歳を祝う成人の集い開催事業	1,129,000 円
報償金	680,000 円
・集合記念写真報償費（写真データ）	630,000 円
・アトラクション出演依頼謝金	50,000 円
食糧費	10,000 円
一般需用費	250,000 円
・恩師からのメッセージ冊子印刷ほか	
役務費	189,000 円
・駐車場整理作業員、看板設置等	

4 生涯学習推進講座開催事業 2,486,000 円

各種講座 講師謝金・旅費など	1,835,000 円
・ 幼児すてっぷ出前講座	250,000 円
・ 親子ですくすく出前講座	192,000 円 ※県補助事業
・ 地域家庭教育講座	100,000 円 ※県補助事業
・ 地域人材交流講座	560,000 円
・ 酒田愛ごはん	32,000 円
・ 鳥海山・飛鳥ジオパーク講座	120,000 円 ほか
その他 一般需用費、保険料・手数料など	651,000 円

5 ミライニ管理運営事業 310,088,000 円

ミライニ運営評価審議会委員報酬	137,000 円
修繕料	1,707,000 円
・ 駐車場棟精算機消耗品交換修繕	615,000 円
・ ミライニ修繕 ほか	1,092,000 円
光熱水費	21,044,000 円
施設管理委託料	248,235,000 円
・ 指定管理委託料	247,152,000 円
・ 駅東駐車場施錠開錠業務委託料	1,083,000 円
システム関連業務委託料	990,000 円
借上料	19,250,000 円
・ 図書館情報システム賃貸借料	19,019,000 円
・ 除雪機借上料ほか	231,000 円
備品購入費	520,000 円
・ ミライニ備品（研修室遮光カーテン）	520,000 円
負担金	17,761,000 円
・ 管理組合負担金	17,700,000 円
・ 山形県図書館協会等への負担金	61,000 円
その他 報償金、一般需用費、手数料など	444,000 円

6 酒田っ子根の力育成プロジェクト事業 134,000 円

講師謝金等	90,000 円
・ 朗読会指導者謝礼、講師謝金等	70,000 円
・ チャレンジ冒険団講師謝金	20,000 円
役務費	44,000 円
・ 朗読会 照明・音響操作手数料	44,000 円

令和6年度 主要事業 事業実績

資料2

教育委員会社会教育課

【令和7年2月28日現在】

<生涯学習推進計画の基本目標>

人づくり・・・自ら学び、考え、時代の変化に対応できるたくましい人を育みます。

地域づくり・・・酒田の良さを愛し、地域社会を協働で創る担い手となる人を育み、持続可能なまちづくりに努めます。

基本施策 I 生涯学習の機会や場の充実 <学ぶ>

I-1 人生100年時代を見据えた学びの推進

(1) 全世代を対象にした事業の充実 (2) 乳幼児期を対象にした事業の充実 (3) 高齢期を対象にした事業の充実

事業名	目的	内容	日時・時間帯・会場等	参加者数・実績等	成果○と課題●→今後の対応
酒田愛ごはん～くだもの探検隊～	庄内地方の特産くだものについて学ぶ。	講義と調理実習、圃場の見学(いちご(2回)、メロン、梨、柿の会は中止)	5月～11月(全5回) ①いちご会(AM) 10:00～11:30 ②いちご会(PM) 13:30～15:00 ③メロン会 9:00～12:00 ④梨の会 10:00～13:00 ⑤柿の会 →中止 会場:文化センター、十坂コミセン、現地等	①5/11(土)いちご会(AM) 親子10組24人 ②5/11(土)いちご会(PM) 親子10組26人 ③7/13(土)メロン会 親子8組15人 ④9/14(土)梨の会 成人対象9人 目標数:のべ70人→実績74人	○講義や調理実習、ほ場見学等を通して、受講生が特産くだものについて深く学ぶことができた。今年度はほ場見学と生産者からの説明も取り入れ、テーマを限定したことで、関心の高い受講生が多かった。 ●テーマが限定的なことで食材の準備が危ぶまれたり、受講生の性別や年代に偏りが見られたりした。 →受講者層を考慮した講座を企画する。
市民生涯学習支援事業	市民各層の人材の情報収集をし、市民自らが講座を企画から運営まで実施することで生涯学習の振興を図る。	今まで学んだことの知識や経験を生かした講座の企画・運営ができる方を生涯学習の指導者として登録。企画・運営する講座を支援する公募型事業。	指導者登録:通年 指導者企画講座:募集6/1号広報、実施9月～ 会場:文化センター	【企画講座】「はじめてのヨガ」初心者向けのヨガのポーズと呼吸法を学ぶ10/8～11/26(全5回)成人16人のべ66人参加 新規指導者登録目標数:3人 →実績1人 企画講座実施	○指導者企画講座「はじめてのヨガ」を全5回実施した。健康や軽運動に関心のある受講者が多く、自主サークルとして活動を継続することとなった。 ●講師は応募時点からサークルとして活動したい意向があったが、講座の中で受講者同士が交流する機会が少なく、サークル参加希望者が半数程度だった。 →参加者同士の仲間づくりという点から、講座の企画・運営に当たっては交流的な側面についても配慮するよう働きかけていく。
スマートフォンの使い方教室	デジタルデバイス解消のため、主に高齢者にむけて、スマホ等に触れる場を提供する。	はじめてのスマートフォン体験	①8/28、③11/12 3:30～15:30 会場:文化センター	①8/28(水)目標数15人 →実績15人 ②9/5(木)目標数15人 →実績11人 ③11/12(火)目標数15人 →実績13人 ④11/19(火)目標数15人 →実績15人	○デジタルデバイドの解消。実際にスマートフォンを使用することで、持っていない方も、体験的に使うことができた。 ●参加者の習熟度により、受け止め方にばらつきがあった。
LINEの使い方教室		スマホの基本とLINE体験 酒田コンポの使い方	②9/5、③11/19 13:30～15:30 会場:文化センター	目標数:のべ50人→実績54人	→個人の問題解決に関しては、各人でキャリア会社の講座や相談窓口を利用するなどの対応を促す。
幼児すてっぷ出前講座	保育園、子ども園と連携し、「遊び」を通じた幼児教育を実践。	講師派遣 ①楽しくチアダンス ②よねさんの紙芝居 ③積み木 ④絵本の世界を楽しもう	6月～2月 9:00～11:45、13:45～14:30の間で1講座30分から2時間 会場:各園	①楽しくチアダンス 5回 ②よねさんの紙芝居 5回 ③積み木 10回 ④絵本の世界を楽しもう 2回 実施予定数:17園 →実績 22園(22回)	○各コースとも、それぞれ子どもの感性や創造性を育む内容であり、日常の子どもの指導に役立てられた。 ●申込園が増加した為、不採択となった園が3園あった。 →必要な要望に応えられるよう予算を厚くして対応していく。

I-2生涯学習機会の提供

(1)各種講座の提供 (2)学習成果の発表

事業名	目的	内容	日時・時間帯・会場等	参加者数・実績等	成果○と課題●→今後の対応
生涯学習まつり2024	市内で活動している生涯学習サークル・団体などの成果発表を通して、生涯学習サークル・団体・教室の会員等の交流を図るとともに、より一層の市民に身近な生涯学習の振興を目指す。	生涯学習サークル・団体の活動発表	10/19(土)～20(日) 1日目:9:00～16:00 2日目:9:00～14:00 会場:文化センター	参加団体目標数:40団体 →実績42団体 入場者目標数:2,500人 →実績2,342人	○今年度は酒田市からの予算付けもあったことで、昨年は制限を設けていた舞台演出や展示場所も今年は各団体の意向を取り入れられたので、成果を発揮できた団体が多かった。参加団体数は特設ステージ部門を合わせて目標の42団体を達成できた。 ●9～11月は市全体でイベントが多くなる期間のため、たくさんの来場者が見込める期日や開催時間を設定することが課題となっている。 →期日や開催時間については生涯学習まつり実行委員会などで検討していく。また、広報やホームページ、各施設へのチラシ配布など様々な方法で生涯学習まつりの周知を図り、集客を促す。
酒田マリンジュニア合唱団	音楽と合唱を通して豊かな心を育み、異年齢間の仲間づくりを進める。	定期練習、定期演奏会等への出演	6月～3月 (土曜日、21回) 10:00～11:30 会場:文化センターほか	活動:6月～3月(土曜日)全21回 演奏会:10/5(土)ユネスコ東北大会 2/15(土)ユネスコ童謡を歌う会 3/22(土)第69回定期演奏会等 団員数:14人 新規入団者目標数:5人 →新規入団者実績4人	○4人の新規加入があったものの前年度に比べると団員数が2人減少した。今年度は変則的に前半の10月にユネスコ東北大会があり、合唱を披露する機会が増えたため、メリハリをつけながら楽しく練習をすることができた。また、後半のユネスコ童謡を歌う会や定期演奏会へ向けて意欲的に練習に取り組み、歌声を人に届ける喜びと達成感を味わうことができた。 ●今年度は団員数が14名となったが、毎年度中学生の卒団等がある一方で市の少子化も進んでおり、団員数の維持が課題となっている。 →団員のモチベーションの低下を防ぎながら、団員数の減少を食い止め、新規入団のメンバー募集に努めていきたい。
酒田海洋少年団	少年少女が海に親しみ団体生活の規律を通して社会性を身につけること等を目的とする。	水泳訓練、カヌー訓練、手旗、ロープワーク等	通年(月2～3回、日曜日) 会場:文化センター、訓練場所(新井田川、光ヶ丘プール、消防本部等)	主な活動内容:合同合宿、カヌー訓練、水泳訓練など 活動回数:25回	○今年度は東京での全国大会式典への参加や新潟団との合同合宿など、団員にとって充実した交流や訓練を行うことができた。 ●他地域の海洋少年団が団員の減少などで廃団になったりしているため、近隣の海洋少年団との交流が年々困難になってきている。 →合同合宿等へ積極的に参加するなど、他団との交流を絶やさないようにする。

I-3家庭・学校・地域の連携

(1)家庭教育支援の充実 (2)学校での学びの充実 (3)地域での学びの充実 (4)連携による事業の充実

事業名	目的	内容	日時・時間帯・会場等	参加者数・実績等	成果○と課題●→今後の対応
幼児すてっぷ出前講座【再掲】	-	-	-	-	-
夏休み宿題お手伝い教室	退職公務員(元教職員)連盟と公益大生、中高生ボランティア「かざみどり」が連携し、夏休みの宿題学習の支援を行い、子どもの居場所づくり、仲間づくりを行う。	夏休み帳、各種ドリル等で手助けしてほしい教科や内容についてアドバイス。	7月～8月(全4回) 9:30～11:30 会場:文化センター	7月～8月(全4回) →7/31、8/1、8/2(全3回) 参加者 25人 目標数:20人→実績25人	○大部分の児童は宿題がはかどり、楽しく過ごせたということで満足度が100%となった。 ○講師が一人ひとりのつまづきに丁寧に対応したため、子どもたちにわかる楽しさを味わわせることができた。 ●夏休みの始まりが遅くなった学校が何校もあったため、講座の期日・期間を変更しなければならなかった。 →各学校の行事予定を早く知り、夏休みの早い日程で実施できるようにしたい。
地域人材交流講座	小中学校において、地域で専門的な知識や技能を有する地域の人材を生かした学習を展開し、学習活動における学習意欲や実践意欲の高揚を図る。	講師謝礼。小中学校と連携し実施。地域人材による学校支援。クラブ活動、生き方学習、農作業体験、読み聞かせ、地域の文化や歴史・自然を学ぶ学習、スポーツなど	5月～2月 各学校の授業の時間帯(特別活動(クラブ)、生活科、理科、社会、国語、総合学習、その他の活動等) 会場:各学校	学校からの実施計画:275回(小学校21校、中学校3校) →実績265回(24校×2～15回)※需要に応じ調整した 予算上の実施予定数:286回(全28校×10回+予備6回) →265回(24校×2～15回) ※需要に応じ調整した	○小・中学校において、専門的な知識や技能を有する地域の人材を生かした学習を展開し、学習活動における児童生徒の学習意欲や実践意欲の高揚を図ることに寄与することができた。 ●事務効率向上のため、実施要項の細部や関係書式を修正したが、円滑な事業実施のため、さらに検討する必要がある。 →謝金の計画的な活用について働きかけを行い、適正な事業執行に努める。

酒田っ子はぐくみ事業	小中学校と連携。現代社会を生き抜くうえで確かな力、身に付けなければならない基本的な知識の習得、職業観の醸成、コミュニケーション能力の向上を図る。	講師派遣。 ①キャリア教育コース ②音楽でコミュニケーション ③コミュニケーション講座 ④キャリア形成支援 ⑤郷土に学ぶ ⑥学校講師決定方式	6月～1月 9:25～11:25、13:20～15:20の間で1講座45分から90分授業 会場:各学校	内容・回数、実施校数 ①キャリア教育コース 1回、1校 ②音楽でコミュニケーション 5回、5校 ③コミュニケーション講座 2回、2校 ④キャリア形成支援 1回、1校 ⑤郷土に学ぶ 3回、3校 ⑥学校講師決定方式 1回、1校 実施予定数:13回→実績13回(小学校10校、中学校3校)	○コミュニケーションの取り方や協力することの大切さを学び、人間関係をより良く築くために役立った。また、防災についての意識を高めることや地域の歴史や偉人を学び郷土愛を育むことに役立った。今年度はメニューに学校講師決定方式も加え講師の自由な選択が可能となり、中学校の実施が昨年度の1校のみから3校へと広がった。 ●今年度新たに設定した学校講師決定方式の利用がまだ少ない。 →学校選択制について継続して案内し、幅広いニーズに対応していく。
親子ですくすく出前講座	子ども園・保育園・子育て支援センター等と連携。親子でのふれあい体験や保護者の学ぶ機会の提供を行い、家庭教育の支援の充実を図る。	講師派遣。 ①親子ふれあい体験コース(ネイチャーゲーム、ヨガ、絵本作り、紙芝居、フィットネス、カード作り、リミック、陶芸)、 ②保護者支援コース(子育て講演会) 【県補助事業「幼児共育ふれあい広場」】	6月～2月 9:00～11:30、13:00～14:00の間で1講座60分から120分 会場:各園等	ネイチャーゲーム 3回 ヨガ 5回 リミック 6回 陶芸 1回 子育て講演会 6回 実施予定数:35回→実績21回(保育園・幼稚園、子育て支援センター等19園)	○「親子体験コース」のメニューを新たに2つ増やして8メニューにした。その内の1つ「親子ヨガ」に5つの園・子育て支援センターの申し込みがあり、保護者にも園や子育て支援センターにも好評であった。 ●この講座に申し込む園が毎年ほぼ同じで偏りが見られる。 →活用していない園に積極的に声をかけたり、園のニーズに合わせた新しいメニューを入れたりして申し込みを増やしていきたい。
地域家庭教育講座	小中学校と連携。家庭教育の充実を図るため、PTA・学校・地域が協働し、ライフステージに応じた学習機会の提供、親子共同の体験型学習の提供を行い、家庭教育力の向上を推進する。	子育てに関する講座や親子共同の体験型学習の実施について、講師、協力団体謝金の一部支援。(生活習慣、健康管理、心の理解と支援等の講話等) 【県補助事業「やまがた子育て講座」】	6月～2月(20回→10回) 13:30～15:10、18:30～20:00の間で40分から90分 会場:各学校	子育て講演会 9回 PTA研修会 1回 実施予定校:11校→実績10校(小学校9校・中学校1校)	○昨年度まで5年間ほど中学校の申し込みがなかったので、中学校のニーズに合わせた講座内容を検討し、講師の紹介を行った。その講師の方に依頼があり、中学校のPTA 研修会として実施された。 ●申し込み、実施する学校が毎年ほぼ同じで偏っている。 →参考として紹介している講師の方を増やしたり、校長会等で講座の長所を説明したりする。
鳥海山・飛鳥ジオパーク講座	鳥海山・飛鳥ジオパークが日本ジオパークネットワークの認定を受け、自然・歴史・文化等について学ぶ機会をつくり、郷土を愛する心を育て、鳥海山・飛鳥ジオパークの活性化に資する。	①飛鳥ジオツアー(現地学習)成人対象 ②子ども向けジオバスツアー(現地学習)小学3～6年生の親子対象 ③誰かに話したくなるジオ講座(座学+現地学習)成人対象 ④史跡探訪ジオツアー(現地学習)成人対象	①6/1(土)9:00～17:00 ②7/6(土)9:00～16:00 ③9/7、14、21(土)(全3回) ④10/12(土) 会場:文化センター、現地(飛鳥、大物忌神社、八森遺跡、城輪柵跡等)	①6/1(土)目標15人→実績15人 ②7/6(土)目標10組20人→催行中止 ③全3回講座 目標15人→実績6人 ③-1回目 9/7(土) 実績6人 ③-2回目 9/14(土)実績5人 ③-3回目 9/21(土)催行中止 ④10/12(土)目標14人 →実績14人 目標数:のべ91人→実績40人	○市民がジオパークの観点から郷土を学ぶことにより、地域の魅力を再発見するような講座となった。実験や現地学習を取り入れ、参加者が五感を使って学習することができた。今年度は遊佐・八幡エリアにも行くことができ、参加した受講者からも行ったことがない場所に行けて新鮮な体験だったとの声があった。 ●リピーターが多い講座のため、新規の受講者の獲得が課題。荒天時の対応策も必要か。 →昨今、いきいき体験スクールなどで飛鳥に行く小学校が減少しているため、飛鳥ジオツアーに小学生向けのプログラムを追加する。
親子で学ぶ論語コミュニケーション♪	親子等で論語の教えを活用した家庭内コミュニケーションの方法を学ぶことにより、子どもたちが道徳心を育む機会とする。	「論語」と「南洲翁遺訓」の概要講義、論語の代表的な章句の素読、章句の意味と家庭内コミュニケーション方法の解説、意見交換等。	9/21(土)13:30～15:00 会場:文化センター	目標数:10組20人→実績2組4人	○南洲翁の観点等から学ぶことにより、ある程度庄内に馴染みのある内容の論語講座となった。 ●内容が難しい講座のため、特に子どもの受講者への配慮が課題。 →講師と内容を検討していく。
夏休み企画 プロジェクションマッピングツアー	・7月の大雨災害に遭った子どものメンタルケア ・保護者の負担を減らす ・今年の夏を少しでも良い思い出にしよう	・プロジェクションマッピング体験 ・カレー、デザート作り ・プラ板アクセサリ作り ・ブンブンゴマ体験、制作	8/19(月)10:00～15:00 会場:文化センター	申込者数 11人 参加者数 9人(2人欠席) 目標数:20人→実績11人	○対象者を大雨災害の被災地域の小学生とした。保護者の中には被災地の対応に現在も従事しており、子どもと夏休みを過ごすことができていると話す方もおり、感謝の言葉をいただいた。また、子どもたちも大変楽しんで受講し、たくさんの笑顔を見ることができた。 ●松山小、一條小、八幡小、西荒瀬小を対象に参加者を募集したが、八幡小、一條小からは1人ずつの参加となったため、知り合いがおらず寂しそうな顔をしている児童がいた。 →同様の講座を実施する際は、友達を誘って参加してもらう。

春休み企画 つみきのワーク ショップ	春休み期間に子どもたちにつみきでダイナミックに遊ぶ機会を提供する。集団での遊びを通して、ほかの参加者と協力し、コミュニケーションを図る力を養う。	約200キロのつみきを使用し、つみきの町を作る。	3/20(木・祝) ①9:30～11:30 ②13:30～15:30 会場:文化センター	参加者目標数 ①年中・年長児と保護者10組 ②小学生20人	※これから実施するもの。
春休み企画 巨大プラレール を楽しもう	・鉄道に興味を持つ子どもを増やし、鉄道利用促進に寄与する ・春休み中の遊びと学びの機会を提供する	・巨大プラレール(ジオラマ)の見学 ・プラレールの運転体験 ・ペーパークラフトの作成	3/22(土)10:00～15:00 3/23(日)10:00～15:00 会場:ミライニ	参加者目標数 ・運転体験、ペーパークラフト →両日合計40人	※これから実施するもの。

基本施策Ⅱ 生涯学習活動の支援体制の充実 <つながる>

Ⅱ-1 広報・情報提供体制の充実

(1) 学習情報発信のあり方 (2) 人材の活用と育成 (3) 相談体制の充実

事業名	目的	内容	日時・時間帯・会場等	参加者数・実績等	成果○と課題●→今後の対応
生涯学習情報の提供	学校を通して市内全小中学生へ情報を提供。媒体を分けて、より多くの方に情報が届くよう情報発信を実施。	カモンくんこどもニュース(隔月)、市ホームページ(随時)、市フェイスブック(随時)、市広報(随時)での情報提供			○カモンくんこどもニュースでは、当課主催事業を中心に多くの情報を提供することができた。 ●カモンくんこどもニュースは児童生徒ひとりひとりに配布しており広報周知には効果的であるが、タイムリーな情報提供や情報量が限られてしまう場合があるため、併せてHPやフェイスブック等の他の媒体も活用して情報発信に努める。 →年5回発行を基本とし、必要に応じて臨機応変に対応する。
市民生涯学習支援事業【再掲】	-	-	-	-	-
ホール機器操作講習会	ホールの機器操作資格者を養成し、総合文化センターホール・シアターOZの利用促進を図る。	自主活動推進のため総合文化センターホール・シアターOZの機材・器具の操作講習会。	・シアターOZ(3日間全1回) 4/22～24 19:00～21:00 会場:OZホール ・文化センター 更新(3日間全3回)2/17～19 新規(3日間全1回)2/3～5 各日19:00～21:00 会場:文化センター	・シアターOZ 4/22(月)～24(水) 受講者14人(更新8人、新規6人) ※3年更新(～R9.4.30まで) ・総合文化センター 更新2/17(月)～19(水)6人 新規2/3(月)～5(水)7人 ※2年更新(～R9.3.31まで)	○シアターOZは修了者14人(更新者8人、新規6人) ○総合文化センターは修了者13人(更新者6人、新規7人) ●総合文化センターホールは今年度に起きた事故を受けて一般の機器操作者が操作する際に一定の制限を設けたので、ホール使用の変更点について使用団体に理解してもらえるよう努める。 →受講者に向けて機器操作の変更点を周知していく。

Ⅱ-2 関連施設の利活用

(1) 利用者ニーズの対応

(2) 生涯学習関連施設の利活用

事業名	目的	内容	実施期間等	実績等	成果○と課題●→今後の対応
生涯学習施設管理運営事業	誰もが等しく活用できるように、必要な改修や修繕を行うなど、安全・快適で使いやすい施設運営に努める。	管理運営施設:総合文化センター、清亀園、出羽遊心館、公益研修センター、ひらた生涯学習センター、ひらた農村コミュニティカレッジの施設維持管理と施設運営。	通年	施設の老朽化により修繕に要する費用が多額となっている状況であり、限られた財源の中で安全対策を優先して対応している。また、稼働率が低い施設への利活用の促進を図るように努めている。	○総合文化センターの防火シャッター部品交換修繕やひらた生涯学習センター軒先修繕などの修繕を行い、利用者が安全に使用できるよう努めた。 ○施設利用者の減少している施設について、出羽遊心館では新たな取り組みとして出羽遊心館ステージを実施した。清亀園は予約があるときのみ開館とし、管理運営費の削減に努めた。 ●施設・設備の老朽化による不具合が度々発生している。 →利用者が安全に使用できるよう、引き続き計画的に修繕・更新を実施していく。
生涯学習施設「里仁館」補助金	庄内一円の生涯学習振興をさらに推進するため、各種講座の運営費に助成を行う。	生涯学習施設「里仁館」への補助金の交付(5,665千円)	通年		※里仁館運営補助金はR4年度からR8年度まで5年間で4,721千円に削減する。(△472千円/年)

基本施策Ⅲ 生涯学習の成果の活用 <生かす>

Ⅲ-1 学校・大学との連携の推進

- (1) 各種教育機関との連携
- (2) 学生と市民との学習交流活動の推進

Ⅲ-2 地域活動との連携の推進

- (1) 地域の歴史と文化を学ぶ機会の充実
- (2) コミュニティ組織の育成・強化

Ⅲ-3 地域人材の育成

- (1) 地域の人材の把握
- (2) リーダーや指導者の育成

Ⅲ-4 公益活動の充実

- (1) 公益活動の推進と支援
- (2) 地域行事への参加の促進

Ⅲ-5 持続可能なまちづくり

- (1) 学びの循環による魅力のある地域づくり

事業名	目的	内容	日時・時間帯・会場等	参加者数・実績等	成果○と課題●→今後の対応
社会教育 スキルアップ講座	各地域の特色を生かした社会教育事業の推進のため、コミュニティ振興会の職員等の資質向上と地域人材育成を図る。	テーマ「みんなで支える協働の地域づくり」 1 講話「みんなで支える協働の地域づくり～大沢地区の取り組みから～」 2 質疑応答 3 情報交換	11月27日 13:30～15:30 (全1回) 会場:文化センター	11月27日 13:30～15:30(全1回) 目標数:35人→実績25人	○阿部氏の講話が地域づくりの取り組み方として分かりやすい内容であったので、参加者は自分事として捉えていた。 ●他地区がどんな活動をしているのか知りたいので、情報交換の時間がもっとほしいという感想があった。 →情報交換の時間を増やしたり、県社会教育研究大会に参加してもらったりして、他地区の事業を知る機会や時間を設定する。 →全コミセンの主な活動状況を調べ一覧表にまとめたものを作成し、各地区の実践例を情報共有した。
地域の教育力向上事業	地域全体で「地域の子」「社会の子」として、子どもと地域の人々が交流できる機会を設け、自然に親しみ、社会のルールを身につけ、自分の考えをしっかりと伝える力などを育む。	コミュニティ振興会における地域の特性を生かした青少年の体験活動や健全育成に係わる講座などの実施について支援。	4月～3月	市街地コミセンへ訪問し、各コミセンの活動状況、運営状況、課題等を伺い、各地域での取り組みや課題について実情の把握に努めた。 また、全コミセンに取り組んでいる活動の情報提供を依頼し、取りまとめた資料を全コミセンで共有を図った。	○各地区において伝統行事など特色ある事業を通して、子どもと地域の人々との交流や地域の活性化が図られている。 ○社会教育指導員が担当地域を訪問し活動状況の把握、各地域への情報提供と相談等への助言などを行った。 ●対象となる児童生徒の減少や現在の子どもを取り巻く環境の変化から、参加者数の減少に苦慮している地域、事業もある。 ●事務局体制の担い手不足や高齢化により、事業運営が大変になってきている。 →今後も各地区の状況を把握し、情報共有・情報交換等を図り、地域との連携を深める。
夏休み宿題お手伝い教室【再掲】	-	-	-	-	-
中高生ボランティア活動支援	ボランティア活動とふれあい交流を通して、思いやりの心を育み、異年齢間の交流を推進する。	中高生ボランティアサークルかざみどりへの支援	活動予定(年間計画)10回 会場:文化センターほか、各ボランティア実施会場 (イオン酒田南店・交流ひろば・光ヶ丘陸上競技場等)	主な活動内容:イベントスタッフボランティア、募金活動など。 活動回数:17回 新規入会者目標数:5人→実績13人	○各活動を通し、参加した中高生が社会性を身に着けるとともに、学校や学年を超えて交流することができた。 ●学業や部活動等で多忙なため、なかなか参加に結びつかない会員がいる。 →引き続き、活動日や時間を複数設けるなど、会員が参加しやすいよう配慮していく。
鳥海山・飛島ジオパーク講座【再掲】	-	-	-	-	-
酒田の偉人紹介事業 <ふるさと教育関連事業>	酒田で生まれ、全国的に各方面で活躍し、歴史に足跡を残した人々の肖像画(写真)を市内小中学校に掲示し、児童生徒から興味を持ってもらい将来の夢や希望を育み、郷土愛の醸成に資する。R6年新規紹介対象:岸洋子		通年(市内21小学校、7中学校に掲示)	通年(市内21小学校、7中学校に掲示)→実施済み	○既に紹介済みの3人の偉人に新たに岸洋子を加え、令和6年度当初より学校に掲示。 ●配布したパネルの活用については各学校ごとに活用方法を委ねているため、どのように活用をされているかを把握するのが今後の課題となっている。 →今後も継続して追加し、紹介していく
酒田文化伝承シリーズ<ふるさと教育関連事業>【再掲】	-	-	-	-	-

事業の目的

R7当初予算額：134千円

酒田っ子につけたい力を「まなびの樹」にたとえ、よりよい社会や幸福な人生に向けて、学びを生かしていく「根の力」を育てる事業を展開する。

酒田の偉人を知り、同じ酒田に生まれ育った子どもたちが夢や希望に向かって頑張る力を育てていく。

事業の内容

○吉野弘さんの詩を読む（朗読会）

酒田市出身の詩人、吉野弘さんの生誕100年の年にあたり、市内の高校生による詩の朗読を開催する。市民の皆さんに発表することで、吉野弘さんのことばを知る機会とする。

○中村ものづくり事業の関連事業

酒田市出身でセイコーエプソン代表取締役社長を務めた中村恒也さんのものづくりにかける思いを引継ぎ、子どもたちがその楽しさを知り、意欲を高める事業を開催する。

○チャレンジ冒険団

子どもたちが自然を体験する事業を開催する。異年齢と交流することで思いやりのある心豊かな人間性を育み、仲間づくりを図っていく（魚釣り体験、魚料理講習、ネイチャーゲーム等）。



詩の朗読会（H30）



チャレンジ冒険団（H25）



酒田市生涯学習推進計画（後期計画）の策定について

1 策定の概要

酒田市生涯学習推進計画（令和2年3月策定）について、計画期間（令和2年～令和11年）の中間を迎えたことから、見直しを行い、後期計画を策定します。

この計画は、酒田市総合計画、酒田市教育振興基本計画を上位計画として、それらを具体的に推進するための分野別計画です。また、国の教育振興基本計画、県の教育振興計画との整合を図りながら策定します。

	R2	R3	R4	R5	R6	R7	R8	R9	R10	R11	R12
国	第3期教育振興基本計画			第4期教育振興基本計画							
県	第6次山形県教育振興計画（後期計画）				第7次山形県教育振興計画						
県	第5次山形県生涯学習振興計画		（廃止）※1								
市	酒田市総合計画（前期）		酒田市総合計画（後期）								
市	第2期酒田市教育振興基本計画（前期）			第2期酒田市教育振興基本計画（後期）							
市	酒田市生涯学習推進計画（前期）					酒田市生涯学習推進計画（後期）※2					
	R2	R3	R4	R5	R6	R7	R8	R9	R10	R11	R12

（※1）山形県では、生涯学習振興計画を令和4年度末に廃止し、その後は山形県教育振興計画の中で生涯学習の振興を図ることとしています。

（※2）第7次山形県教育振興計画との整合を図るため、その策定後の令和7年度中に、酒田市生涯学習推進計画（後期計画）を策定します。

2 策定の体制

- （1）庁内 「酒田市生涯学習推進委員会」において協議
委員／13人（教育次長ほか関係課長）
- （2）庁外 「酒田市社会教育委員の会議」において意見聴取
委員／12人（酒田市社会教育委員）

3 策定スケジュール（予定）

- 令和7年4月～ 計画の内容を検討（酒田市生涯学習推進委員会など）
- 6月 第1回酒田市社会教育委員の会議
- 11月 第2回酒田市社会教育委員の会議
- 令和8年1月頃 計画（案）策定、パブリックコメント
- 2月頃 計画（案）について、市議会へ報告
- 3月 計画決定

令和7年度 第16回山形県社会教育研究大会について

1 目的 :

県内各地から広く社会教育関係者が集い、日頃の社会教育活動の情報や研究成果を学び合うことにより、生涯学習社会に向けた社会教育のあり方を探るとともに、社会教育推進の重要な拠点である公民館等の活動の充実を図り、県内の社会教育の一層の振興・発展を目指すもの。

2 主催 : 山形県社会教育連絡協議会（事務局：開催地区所管の教育事務所）

3 共催 : 山形県教育委員会、各市町教育委員会（開催地区）

4 後援 : 各市町等（開催地区）

5 期日 : 令和7年10月17日（金）（予定）

6 会場 : 川西町フレンドリープラザ・川西町役場・JAおきたま 等（予定）

7 対象 : 社会教育委員、公民館運営審議会委員、教育委員、
公民館等社会教育施設職員、社会教育関係団体・NPO法人関係者、
学校教育関係者、教育行政関係者、福祉行政関係者、
生涯学習関係実践者

8 日程 : 未定（半日の予定） ※令和6年度は1日（10:00～15:30）

9 内容 : 検討中 ※令和6年度は「講演」および「分科会」

令和7年「酒田市二十歳を祝う成人の集い」について

1 開催日程等

日時：令和7年5月4日(日・みどりの日)

受付：午後0時30分～ 記念式典：午後1時30分～

場所：酒田市民会館「希望ホール」

内容：式典運営については、実行委員会で検討中

2 参加状況

	対象者	当日参加者
令和5年	1, 138人	701人
令和6年	1, 137人	753人
令和7年	1, 032人	-

3 式典の参加方法の変更について

これまでは、市から対象者へ案内ハガキを郵送して、当日にハガキを提出して受付する方式でした。令和7年の式典から、スマートフォン等による事前申し込みと当日受付へ変更します。

4 記念写真の配布方法の変更について

これまでは、市から式典参加者への記念品として、中学校別の集合写真の撮影と写真の郵送を行っていました。

令和7年の式典からは、写真の郵送をやめて、出席者が写真データをダウンロードする方式へ変更します。

写真がデータになることで、出席者の写真管理の利便性向上や、写真の現像代・郵送代の経費削減が見込まれます。

5 その他

- ・紙の写真を希望する場合は、有料で購入することもできます。
- ・スマートフォンをお持ちでない方、事前に申し込み手続きをしていない方も、当日は入場できるように対応します。
- ・令和8年の式典からは、案内ハガキの郵送はやめて、市広報、チラシ、ホームページ等で申し込みの2次元コードを案内する予定です。

「第4次酒田市子ども読書活動推進計画」の策定について

「第3次酒田市子ども読書活動推進計画」の計画期間が令和7年度末に終了するため、次期計画となる「第4次酒田市子ども読書活動推進計画」を策定します。

1 計画策定の趣旨

本計画は、子どもの読書活動を推進するための施策を総合的かつ計画的に推進し、子どもの健やかな成長に資することを目的とし、本市としての方向性や取り組みを示すものです。家庭、地域、学校・園等社会全体で、自ら本に親しむ、読書好きな子どもを育み、子どもの豊かな心の育成を目指し策定いたします。

2 計画の位置づけ

本計画は、国の「第5次子どもの読書活動の推進に関する基本的な計画」と県の「第4次山形県子ども読書活動推進計画」を基本とし、酒田市総合計画（後期計画）、第2期酒田市教育振興基本計画（後期計画）との整合性を図りながら策定します。

3 計画の推進期間

令和8年度から令和11年度までの4年間

4 計画策定の進め方

- (1) 子どもの読書活動の現状とニーズを把握するために、令和7年2月～3月に小・中学生および保護者に対するアンケートを実施しました。
- (2) 市民から計画策定に参加していただくために、ワークショップの開催やパブリックコメントを実施し、市民の意見を広く聴取し計画策定に活かします。
- (3) 学識経験者等からなるミライニ運営評価審議会において専門的な立場から計画策定の審議・検討を行います。